

第2期広島市立大学塾活動報告【10月17日】

国際学部国際学科1年

池田 千夏

本格的に始まってから2回目の市大塾となった今回は、プロジェクト X という映像資料を観て議論した。いくつかある資料の中から、指定の1本と任意の1本を観てレポートを書いて話をした。プロジェクト X では、さまざまなタイプのリーダーがなにかしらのプロジェクトを達成するべく奔走する。そのリーダー像についての議論は前回にも増して、膨らんだ。時間が足らず、すべての映像について話し合うことができなかつたほどだった。

そんな中で、一番白熱したと筆者が感じた議題は「全てを棄てて打ち込むこと」についてだ。学長・副学長は「家族が邪魔だと思うほど打ち込みたいことがあった」と話すなか、塾生の内の何名かが「家族に対する責任もある」と意見した。今振り返って改めて考えると、そこまで打ち込みたいと思うことがどこか羨ましいと思う。

すこし変わったところでは、「映像資料と書物の違い」についての議論があがった。前回のテーマは本だったが今回は映像だったことから、どちらがわかりやすいか。どのような時にどっちが適しているかなど話し合った。その結果、市大塾ビブリオ大会が行われることになった。映像資料、映画、ドラマ。なんでも有りの映像版ビブリオ大会だ。票が集まった何本かは宿泊研修のときにみんなで観る。非常に楽しみだ。